

特別支援学級 体育科学習指導案

I 単元名 動いたり跳んだりしよう（わくわく島を探検しよう）

II 単元の指導構想

1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

特別支援学校学習指導要領小学部の内容には、「基本的な運動」について示されている。歩く、走るなどの動きを基本にして未分化でやさしい運動から指導を始め、転がる、はう、跳ぶ、またぐなどの運動を取り入れたり、運動の姿勢、方向、回数を変えたり、低い平均台や跳び縄などを使ったりして多様な動きを経験できるようにすることの重要性が示されている。また、蹴る、ぶら下がる、捕る、投げる、つかむ、離す、動作を止める、速めるなどの動きも合わせて行うことにより、粗大運動に関する基礎的運動能力の向上を図ることにつながることを示されている。

子どもたちが運動の楽しさを感じながら基本となる体の動き方を身に付けていくことで、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育むことにつながることを考える。

2 教材について

本単元では、わくわく島を探検を通して子どもたちが様々な運動を経験する。探検隊になった子どもたちは、クマ歩き（四つ足歩行）、一本橋（バランス）、ジグザグ道（ジグザグ走り）雪玉投げ（投げる）、がけ跳び（跳ぶ）、大波くぐり（大縄くぐり、跳び越し）などの運動を行う。単元を通して、探検のダイナミックな動きを楽しみながら学習を進められるようにしたい。

単元のオリエンテーションでは、わくわく島のクマ歩き、一本橋、ジグザグ道を探検しながら様々な場を探検を通して、運動に取り組むことをとらえることができるようにする。同時に学習の流れを知り、見通しをもって意欲的に学習をすることができるようにする。運動の仕方について話し合う場面では、ポイントとなる動きをみんなで深めるため、手本となる友だちの動きを見たり、よい動きを広めたりする。そうすることで集団の運動の技能も少しずつ高まり、運動の楽しさを感じることができるのではないかと考える。

本単元の運動は、雑巾掛け（四つ足歩行）、階段の昇降（バランス）、大縄くぐり（タイミング）、素早い動き（走る、跳ぶ、）、力強い動き（投げる）など児童の生活に密接に関わっている。これらの運動に取り組むことで、毎日を健康によりよく過ごすための子どもたちの体力の向上につながっていくものと考えられる。

3 子どもについて

子どもたちは、運動をすることが好きな子が多く、楽しんで体育の学習に取り組んでいる。これまでの体育の学習を通して、子どもたちは、体を効果的に動かすことが徐々にできるようになり、それに伴って少しずつ運動の技能が向上してきている。また、一単位時間の振り返りの場面では、自分の頑張りに加えて、友だちの頑張りを発表する子どもたちが増えてきている。さらには、自分の動きだけでなく友だちの動きを見て、その動きのよさを見つけようとする意識が強くなってきている。

子どもたちはそれぞれ多様な特性をもっており、体を効果的に動かすことができる子どももそうでない子どももいる。しかし、どの子どもも課題を解決しようとひたむきに努力する子どもたちである。子どもたちが「友だちと一緒に探検していたら、前よりももっとうまく運動することができるようになったよ。」という思いをもち、互いのよさを認め、励まし合いながら学習することを通して、一人一人が力を伸ばすことができるようにしていきたい。

4 復興教育との関連

(1) 生命や心について【いきる】

③【価値ある自分】…自分の気付きが友だちの学びに生かされていることや一生懸命に練習したことでもうなったことを感じることで、自己肯定感をもつ。

⑤【やり抜く強さ】…時間いっぱいランニングをすることやさまざまな運動遊びに繰り返し取り組むことで、やり抜く強さをもつ。

⑦【体の健康】…周囲の様子を確認して理解し、状況に合わせて安全に気を付けて運動する意識をもつ。

(2) 人や地域について【かかわる】

⑨【仲間や地域の人々とのつながり】…友だちの動き方を見たり、友だちが気付いたポイントを聞いたりすることで効果的な動き方への理解が深まったことを実感し、友だちと一緒に学ぶことのよさに気付く。

Ⅲ 単元の指導計画

1 目標

- わくわく島の探検を通して、友達と一緒に楽しく運動に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 投げる、跳ぶ、くぐるなどの基本的な運動ができる。(技能)

2 評価規準

体育への関心・意欲・態度	技能
わくわく島の各種の運動に進んで取り組み、友達と励まし合って活動しようとしている。	4 本単元における各時間の個別の目標を参照

3 指導計画 (全8時間)

時数	ねらいとする動き	グループ毎の学習内容			本研究の手立て
		緑 T1	青 T4	黄色 T2	
1	「わくわく島を探検しよう」のオリエンテーション ・ジグザク走行 (敏捷性) ・四つ足歩行 (四肢の支持) ・ミニ平均台 (バランス)	・わくわく島のいろいろな場所を探検するイメーজをもつ。 ・ジグザク走行, 四つ足歩行, ミニ平均台の運動をする。			わくわく島の地図を提示し、みんなでいろいろな場所を探検することをとらえられるようにする。
2	・雪玉投げ (投げる) ・腕の振り上げ, 腕の振り下ろし, 足の踏み出し)	的をねらって速くに雪玉を投げる。(2m~3m)	的をねらって速くに雪玉を投げる。(1. 5m~3m)	教師の支援を受けながら雪玉を投げる。(1m~2m)	より雪玉を遠くに投げるための体の動かし方を話し合う。
4 本時 ・ 5	・がけ跳び (跳ぶ) (助走, 片足の踏切, 両足の踏み切り, 腕の振り)	助走をつけて, 片足跳びで速くに跳ぶ。(90cm)	助走をつけて片足跳びで跳ぶ。(70cm)	教師の支援を受けながら片足跳びや両足跳びで跳ぶ。(30cm)	より速くに跳ぶための体の動かし方を話し合う。
6 ・ 7	・くぐる 飛び越す (走り出しのタイミング, 敏捷性)	タイミングを合わせながら, 速くまわる大縄をくぐる。	タイミングを合わせながら, ゆっくりまわる大縄を飛び越す。	教師の支援を受けながらゆっくり揺れる大縄を飛び越す。	大縄がどの場所に来たときに走り出せばよいか話し合う。
8	1~7時間目までの動き	これまで取り組んできた運動のポイントを確認し, 全部の探検をサーキット形式で行う。 ・学習の振り返りをする。			自分が上達したことについて発表し合う。

4 本単元における各時間の個別の目標 ※目標の欄に記載した「Iー□」「IIIー□」の内容については、特別支援学級体育科指導内容表を参照

子ども	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
本単元の目標	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動に慣れることができる。	教師と一緒に走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	教師と一緒に走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	教師と一緒に走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	教師と一緒に走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動に慣れることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動に慣れることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動に慣れることができる。	教師と一緒に走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	教師と一緒に走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。
各時間の目標	わくわく島を探索しようオリエンテーション											
1時間目	・わくわく島のいろいろな場所を探索するイメージをもつことができる。											
2・3時間目	教師や友だちの動きを手本にして、ボールを投げる。III-6	教師の支援を受けながら、ボールを投げる。III-5	教師や友だちの動きを手本にして、ボールを投げる。III-6	教師や友だちの動きを手本にして、ボールを投げる。III-6	教師と一緒に走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	教師の支援を受けながら、ボールを投げる。III-5	教師や友だちの動きを手本にして、ボールを投げる。III-6	ボールを力強く投げる。III-7	教師の支援を受けながら、ボールを投げる。III-5	教師や友だちの動きを手本にして、ボールを投げる。III-6	教師や友だちの動きを手本にして、ボールを投げる。III-6	教師と一緒に走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。
4・5時間目 本時4時間目	片足跳びや両足跳びができる。I-6	片足跳びや両足跳びができる。I-6	片足跳びや両足跳びができる。I-6	助走をつけて片足跳びができる。I-8	教師の支援を受けて跳ぶことができる。I-4	教師の支援を受けて跳ぶことができる。I-4	片足跳びや両足跳びができる。I-6	教師の支援を受けて跳ぶことができる。I-4	片足跳びや両足跳びができる。I-6	助走をつけて片足跳びができる。I-8	助走をつけて片足跳びができる。I-8	片足跳びや両足跳びができる。I-6
6・7時間目	揺れる大綱を飛び越すことができる。	教師の支援を受けながら、揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	教師の支援を受けながら、揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。
8時間目	・これまで取り組んできた運動のポイントを確認し、そのポイントを生かして最後の探検を行うことができる。											
子ども	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X
本単元の目標	教師と一緒に走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	教師と一緒に走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	教師と一緒に走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動に慣れることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動に慣れることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動に慣れることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動に慣れることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動に慣れることができる。	教師と一緒に走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。	走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な運動をすることができる。
各時間の目標	わくわく島を探索しようオリエンテーション											
1時間目	・わくわく島のいろいろな場所を探索するイメージをもつことができる。											
2・3時間目	教師の支援を受けながら、ボールを投げる。III-5	教師の支援を受けながら、ボールを投げる。III-5	ボールを力強く投げる。III-7	教師や友だちの動きを手本にして、ボールを投げる。III-6	ボールを力強く投げる。III-7	教師や友だちの動きを手本にして、ボールを投げる。III-6	教師や友だちの動きを手本にして、ボールを投げる。III-6	ボールを力強く投げる。III-7	ボールを力強く投げる。III-7	ボールを力強く投げる。III-7	教師の支援を受けながら、ボールを投げる。III-5	教師や友だちの動きを手本にして、ボールを投げる。III-6
4・5時間目 本時4時間目	教師の支援を受けて跳ぶことができる。I-4	教師の支援を受けて跳ぶことができる。I-4	助走をつけて片足跳びができる。I-8	片足跳びや両足跳びができる。I-6	片足跳びや両足跳びができる。I-6	片足跳びや両足跳びができる。I-6	片足跳びや両足跳びができる。I-6	助走をつけて片足跳びができる。I-8	助走をつけて片足跳びができる。I-8	助走をつけて片足跳びができる。I-8	助走をつけて片足跳びができる。I-8	片足跳びや両足跳びができる。I-6
6・7時間目	教師の支援を受けながら、揺れる大綱を飛び越すことができる。	教師の支援を受けながら、揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。	揺れる大綱を飛び越すことができる。
8時間目	・これまで取り組んできた運動のポイントを確認し、そのポイントを生かして最後の探検を行うことができる。											

VI 本時の指導構想

本時は、わくわく島のがけを跳び越えていく探検をする設定で授業を展開する。緑グループは、助走をつけて遠くまで足跳びができることを、青グループは、助走をつけて片足跳びができることを、黄色グループは、片足跳びや両足跳びができることを、赤グループは、教師と一緒に両足跳びや片足跳びができることをねらいとする。

1 つめの研究の手立てとして、本時の運動の見通しをもつことができるようにするために、わくわく島の地図で本時の探検場所を確認し、その後山肌を横した緑のシートにがけを描いた教材との出会いの場を設定する。数人の子どもたちが試にがけ跳びに取り組み、その様子を全員で見ることができるようになり、探検の雰囲気盛り上げながら本時の課題を把握することができるようになりたい。また、探検隊みんなで跳び越えていくことを大切にしたい。友だちと一緒に探検を楽しもうとする雰囲気醸成していきたい。

2 つめの研究の手立てとして、より遠くへ跳ぶための体の動きをとらえるために、動きのポイントを話し合う活動を設定する。初めにグループ毎にがけ跳び遊びをした後に、そのグループ内で動きのポイントについて話し合う。次に、そのグループの話し合いで気付いたことを全体で共有するための場を設ける。その後、全体で見本となる子どもたちの動きを見ながら動きのポイントを全員で確認する。この話し合いの際、指導者は子どもたちが友だちの気付きを共有することができるように話し合いの仲立ちを務め、発言を整理していく。一人の発言を他の子どもにも繰り返して発言するように促すことで、全員がその動きのポイントをより深くとらえることができるようになる。また、腕、腕、走り方、踏切の仕方など着目する視点を与えることで、動きのポイントに気付くことができるようにしていく。また、友達の話を聞いて理解することが難しい子どもにもついては、指導者が一緒に体を動かして理解を促す。

わくわく島のがけを跳び越えていくという楽しい中にも少しスリルのある設定の中で、片足跳びや両足跳びに取り組み、運動の楽しさややることができるようになったことの嬉しさを実感し、一人一人の目標を達成することができるように指導したい。

V 本時の指導計画

- 1 目標
 - ・友だちと一緒に楽しくがけ跳び探検をすることができる。
 - ・がけ跳び探検をおとして、片足跳びや両足跳びをすることができる。

- 2 各グループの支援のポイント

グループの活動の中で以下のポイントに着目し指導する。

子ども(指導者)	各グループの支援のポイント
D, K, O, T, U, V (T1)	<ul style="list-style-type: none"> ・助走のスピードや強い踏み切り、腕の振り方に着目できるような声がけをする。 ・助走しながらリズムよく跳ぶことができるような声がけをする。
A, C, L, P, Q, X (T4)	<ul style="list-style-type: none"> ・助走からの片足踏み切りの仕方や踏み切りの場所に着目できるような声がけをする。 ・着地場所へ視線を向けることができるようにがけの間隔を広げる。
B, G, I, R, S, W (T2)	<ul style="list-style-type: none"> ・両足跳びや片足跳びの踏切の仕方や腕の振り方に着目できるような声がけをする。 ・徐々に遠くに跳べるように段階的にがけの間隔を広げる。
E, F, H, J, M, N (T3 T5)	<ul style="list-style-type: none"> ・視線を着地場所に向けてるような声がけをする。 ・教師が子どもの手を取り、声をかけながら跳ぶことができるようにする。

- 3 共通の運動と動き

- ① 四つ足歩行、ミニ平均台、ジグザグ走行を取り入れた運動（探検の基本の動き）
- ② 片足跳び、両足跳びの動作を取り入れた運動

子ども・指導者 学習内容	D, K, O, T, U, V 緑 (T1) 評価規準	A, C, L, P, Q, X 青 (T4) ○指導上の留意点	B, G, I, R, S, W 黄色 (T2) ★支援	E, F, H, J, M, N 赤 (T3, T5) ◎研究に関わる手立て	準備物
<p>1 ラジオ体操 (6分)</p> <p>・体の動かし方を確認しながらラジオ体操をする。</p>	<p>○ラジオ体操の中でポイントとなる「(足を)上げる」動きを確認する。</p> <p>★上げる部分で動きをやめ、確実に上げることができるようになる。</p> <p>★「上げる」の声をかけをして動きを意識できるようにする。</p>	<p>○本時の動きにつなげるためにゴムのハードルを設置する。</p> <p>★走った分、紅白の玉が増えていくことを確認できるようにする。</p> <p>★1周走る毎に自分のかごに紅白の玉を入れるようにする。</p>	<p>★対面して一緒にラジオ体操をする。</p>	<p>◎研究に関わる手立て</p>	<p>CDラジカセ ラジオ体操CD</p>
<p>2 ランニング (5分)</p> <p>・BGMに合わせてランニングをする。</p>	<p>★「前を見て走る」「腕を振って走る」「足音を静かに走る」の視点で励ますことで、走る意欲を持続できるようにする。</p> <p>★先頭集団の子どもたちには、より速く走るよう声をかける。</p>	<p>★ゴムのハードルをうまく跳び越すことができるようにジャンプのタイミングを伝える。</p>	<p>★1曲目までは、全員が走ることを約束し、2曲目は、体調に応じてマラソンをし、歩く場合は、内側に入るようにする。</p> <p>★励ましの声をかけながら指導者が近くを走る。</p>	<p>◎教師と一緒にシールの数を数え、自分のがんばりを実感できるようにする。</p>	<p>紅白の玉 かご ゴムのハードル ランニングカード シール</p>
<p>3 学習内容の確認 (4分)</p> <p>・がけをどうやって越えるか見通しをもつ。</p>	<p>○ランニング終了後、全員のカードにシールをはる。</p> <p>○全員のカードにシールをはることで、一人一人のがんばりを称賛する。</p> <p>○自分から進んで汗を拭いたり、シャツを腰に入れたりしている姿を評価する。</p>	<p>◎本時の学習の場を提示し、がけを跳んで先に進む活動をみんなですべてやってみようとする。</p> <p>○子どもが喜ぶような場や子どもたちの能力に応じた場の設定をする。</p> <p>○がけの場を提示し、楽しそうな探検(運動)への意欲を高められるようにする。</p> <p>★試しにがけ跳びをするこ とで学習の仕方を理解し、意欲を高められるようにする。</p>	<p>★友達が試しに跳んでいる様子を見るように促し、学習の仕方を理解できるようにする。</p>	<p>◎教師と一緒にシールの数を数え、自分のがんばりを実感できるようにする。</p>	<p>がけのシート</p>
<p>4 グループ分け・準備 (3分)</p> <p>・自分が何グループかを知り、学習場所に移動する。</p>	<p>○グループ毎にリストバンドを用意して自分の色を確認できるようにする。</p>	<p>★教師と一緒にリストバンドを付け、色を確認する。</p>	<p>◎教師と一緒にリストバンドを付け、色を確認する。</p>	<p>◎教師と一緒にリストバンドを付け、色を確認する。</p>	<p>各色リストバンド</p>

<p>5 かけ跳び探検 (12分)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ毎に、かけ跳びの練習をする。 グループ毎に見本となる動きや、伸びの見た子どもを見合う。 グループ毎に、再度練習をする。 全体で動きのポイントを確認する。 	<p>○助走をつけて片足跳びでかけを跳び越えることができるようにする。</p> <p>★助走のスピードや強い踏み切り、腕の振り方に着目できるような声かけをする。</p> <p>★助走しながらリズムよく跳ぶことができるような声かけをする。</p> <p>★助走からの片足踏み切りの仕方や踏み切り場所に着目できるような声かけをする。</p> <p>★着地場所へ視線を向けることができるようにかけの間隔を広げる。</p>	<p>○片足跳びや両足跳びでかけを跳び越えることができるようにする。</p> <p>★両足跳びや片足跳びの踏切の仕方や腕の振り方に着目できるような声かけをする。</p> <p>★徐々に速くに跳べるように段階的にかけの間隔を広げる。</p>	<p>○教師の支援を受けてかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★視線を着地場所に向けるような声かけをする。</p> <p>★教師が子どもの手を取り、声をかけながら跳ぶことができるようにする。</p>	<p>かけのシート</p>
<p>◎遠くに跳ぶための体の動きについて手本になる友だちの動きを見ながら考えられる場を設ける。</p> <p>◎子どもたちの考えを指導者が仲立ちとなり、かわり合わせることができるようにする。</p> <p>○初めにグループごとに考えを話し合い、その後全員が集まり、動きのポイントを共通理解できるようにする。</p> <p>★遠くに跳ぶための体の動きについて気づいたことを話し合うようにする。</p> <p>★話し合いを進める中で、踏み切りの足、助走、視線などの視点を示し、ポイントに気づくことができるようにする。</p>	<p>○片足跳びや両足跳びでかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★片足跳びや両足跳びの踏切の仕方や腕の振り方に着目できるような声かけをする。</p> <p>★徐々に速くに跳べるように段階的にかけの間隔を広げる。</p>	<p>○片足跳びや両足跳びでかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★両足跳びや片足跳びの踏切の仕方や腕の振り方に着目できるような声かけをする。</p> <p>★徐々に速くに跳べるように段階的にかけの間隔を広げる。</p>	<p>○教師の支援を受けてかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★視線を着地場所に向けるような声かけをする。</p> <p>★教師が子どもの手を取り、声をかけながら跳ぶことができるようにする。</p>	<p>かけのシート</p>
<p>◎遠くに跳ぶための体の動きについて手本になる友だちの動きを見ながら考えられる場を設ける。</p> <p>◎子どもたちの考えを指導者が仲立ちとなり、かわり合わせることができるようにする。</p> <p>○初めにグループごとに考えを話し合い、その後全員が集まり、動きのポイントを共通理解できるようにする。</p> <p>★遠くに跳ぶための体の動きについて気づいたことを話し合うようにする。</p> <p>★話し合いを進める中で、踏み切りの足、助走、視線などの視点を示し、ポイントに気づくことができるようにする。</p>	<p>○片足跳びや両足跳びでかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★片足跳びや両足跳びの踏切の仕方や腕の振り方に着目できるような声かけをする。</p> <p>★徐々に速くに跳べるように段階的にかけの間隔を広げる。</p>	<p>○片足跳びや両足跳びでかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★両足跳びや片足跳びの踏切の仕方や腕の振り方に着目できるような声かけをする。</p> <p>★徐々に速くに跳べるように段階的にかけの間隔を広げる。</p>	<p>○教師の支援を受けてかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★視線を着地場所に向けるような声かけをする。</p> <p>★教師が子どもの手を取り、声をかけながら跳ぶことができるようにする。</p>	<p>かけのシート</p>
<p>6 わくわく島の探検</p> <p>探検の基本の動き・かけ跳び探検 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> かけ跳び探検での学習を生かし、わくわく島の探検を繰り返し行う。 	<p>○助走をつけて片足跳びでかけを跳び越えることができるようにする。</p> <p>★助走のスピードや強い踏み切り、腕の振り方に着目できるような声かけをする。</p> <p>★助走しながらリズムよく跳ぶことができるような声かけをする。</p> <p>★助走からの片足踏み切りの仕方や踏み切り場所に着目できるような声かけをする。</p> <p>★着地場所へ視線を向けることができるようにかけの間隔を広げる。</p>	<p>○片足跳びや両足跳びでかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★両足跳びや片足跳びの踏切の仕方や腕の振り方に着目できるような声かけをする。</p> <p>★徐々に速くに跳べるように段階的にかけの間隔を広げる。</p>	<p>○教師の支援を受けてかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★視線を着地場所に向けるような声かけをする。</p> <p>★教師が子どもの手を取り、声をかけながら跳ぶことができるようにする。</p>	<p>かけのシート</p>
<p>7 後片付け (2分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの使った道具を、グループ毎に片付ける。 	<p>○片足跳びや両足跳びでかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★両足跳びや片足跳びの踏切の仕方や腕の振り方に着目できるような声かけをする。</p> <p>★徐々に速くに跳べるように段階的にかけの間隔を広げる。</p>	<p>○片足跳びや両足跳びでかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★両足跳びや片足跳びの踏切の仕方や腕の振り方に着目できるような声かけをする。</p> <p>★徐々に速くに跳べるように段階的にかけの間隔を広げる。</p>	<p>○教師の支援を受けてかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★視線を着地場所に向けるような声かけをする。</p> <p>★教師が子どもの手を取り、声をかけながら跳ぶことができるようにする。</p>	<p>かけのシート</p>
<p>8 振り返り (3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> がんばったことや楽しかったことを発表する。 お互いの成果を確かめ合う。 	<p>○片足跳びや両足跳びでかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★両足跳びや片足跳びの踏切の仕方や腕の振り方に着目できるような声かけをする。</p> <p>★徐々に速くに跳べるように段階的にかけの間隔を広げる。</p>	<p>○片足跳びや両足跳びでかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★両足跳びや片足跳びの踏切の仕方や腕の振り方に着目できるような声かけをする。</p> <p>★徐々に速くに跳べるように段階的にかけの間隔を広げる。</p>	<p>○教師の支援を受けてかけを跳ぶことができるようにする。</p> <p>★視線を着地場所に向けるような声かけをする。</p> <p>★教師が子どもの手を取り、声をかけながら跳ぶことができるようにする。</p>	<p>かけのシート</p>